

ALINCO

特定小電力ハンディトランシーバー
総務省技術基準適合品 特定小電力機器



DJ-PX5 Gシリーズ 詳細取扱説明書

注意 本機は別売のイヤホンと充電器が必要となります。ご使用になるときは背面のゴムキャップを取外し、「主電源」10番スイッチをオンにします。

アルインコの製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

本機は免許、資格が不要の特定小電力無線機器です。日本国内なら誰でも用途を問わず、各種通信にお使いいただけます。

本機の性能を十分に発揮させるために、付属取扱説明書とあわせて最後までお読みいただくようお願いいたします。

This product is intended for use only in Japan.

アルインコ株式会社

安全上のご注意

◎ 本機を正しく安全にご使用いただくため、「安全上のご注意」をご使用前にお読みください。使用者や周囲の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、次の内容をよく理解してから本文をお読みください。

△警告	この表示は「人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。
△注意	この表示は「人が傷害を負う、または物的損害の発生が想定される内容」を示しています。

- * 重傷とは、けが、やけど、感電、骨折などの傷害で入院や長期通院をしたり、後遺症が残ったりするものを指します。
- * 傷害とは、治療に入院や長期通院の必要がないやけど、けが、感電などを指します。
- * 物的損害とは、家屋、財産、家畜及びペットなどにかかわる拡大損害を指します。

免責事項について

下記について法令上の賠償責任が認められた場合を除き、弊社は一切責任を負いません。

- 天災、人災、弊社の責任以外の火災、使用者の違法、故意、過失、取扱説明書の記載を守らないことを含む誤用、その他異常な条件下での使用により生じた事故と損害
- 本機の故障、誤動作、不具合、または停電などの外部要因にて生じる付随的な損害、不利益（通信できなかったことで生じた損失や事業の中断など）
- 本機の保証点検・修理を受ける際に発生する取外し、取付け費用、弊社が関与していない接続機器やソフトウェアとの組み合わせによる誤動作などから生じた損害
- 故障や修理のために喪失した個別の設定内容やチャンネルのデータ、表面に施された装飾やカスタマイズ用に使われた製品

△警告

■ 使用環境・条件

- 本機を使用できるのは日本国内のみです。国外では使用できません。
This product is permitted for use in Japan only.
- 本機を人命救助などの目的で使用して、万一、故障、誤動作などが原因で人命が失われることがあっても、製造元および販売元はその責任を負うものではありません。
- 本機同士、または他の無線機器とともに至近距離で複数台使用しないでください。お互いの影響により故障、誤動作、不具合の原因となります。
- 本機を何らかのシステムや電子機器の一部として組み込んで使用した場合、いかなる誤動作、不具合が生じても製造元および販売元はその責任を負うものではありません。
- 指定以外のオプションや他社のアクセサリ製品を接続しないでください。故障の原因となります。
- 電子機器の近くでは使用しないでください。電波障害により機器の故障、誤動作の原因となります。
- 内部から漏れた液が皮膚や衣服に付着したときは、皮膚に障害を起こすおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。
- 航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、中継局周辺では使用しないでください。運行の安全や無線局の運用、放送の受信に支障をきたしたり各種機器が故障、誤動作する原因となります。
病院や医療機関では、医療機器などに支障がないか十分に確認の上、管理者の許可のもとご使用ください。
無線機器を使用したことによって、いかなる誤動作、不具合が生じても、弊社は一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
- 自動車などの運転中に使用しないでください。交通事故の原因となります。運転者が使用するときは車を安全な場所に止めてからご使用ください。携帯型無線機を運転者が走行中に使用すると道路交通法違反で罰せられます。
- 第三者の通信を聞いて知り得た情報を無断で他人に話したり、公開したり、悪用すると電波法が定める通信の秘密保護条項に違反して罰せられます。

■ トランシーバー本体の取扱いについて

- 本機は調整済みです。特定小電力無線機器をユーザーが分解、改造、変更することは法律で禁止されています。
- イヤホンを使用するときはあらかじめ音量を下げてください。聴力障害の原因となることがあります。イヤホンに装着する際、静電気が放電することがありますのでご注意ください。
- 本機は防爆構造ではありません。引火性ガスが発生する場所では使用しないでください。静電気など発火事故の原因となります。
- 近くに小さな金属物や水などの入った容器を置かないでください。こぼれたり中に入ったりした場合、火災・感電・故障の原因となります。
- 本機は防水構造ではありません。水などで濡れやすい場所（風呂場など）では使用しないでください。故障の原因となります。

■ 充電器の取扱いについて

- 指定以外の電圧で使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 充電器の AC アダプターをタコ足配線しないでください。過熱・発火の原因となります。
- 濡れた手で充電器の AC アダプターに触れたり、抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 充電器の AC アダプターを AC コンセントに確実に差し込んでください。AC アダプターのプラグに金具などが触れると火災・感電・故障の原因となります。
- 充電器の AC アダプターのプラグに、ホコリが付着したまま使用しないでください。ショートや過熱により火災・感電・故障の原因となります。

■ 内蔵バッテリーについて（リチウムイオン電池）

- 火やストーブのそば、車内や炎天下など、高温になる場所での使用、充電、放置はしないでください。バッテリーの性能や寿命が低下したり、充電できなくなったり、保護回路が破損したりして破裂、発煙、発火や火災、液漏れ、やけどの原因となります。
- 指定の充電時間を経過しても充電が完了しない場合は、直ちに充電を中止してください。充電を続けると、発煙や発火を起こす危険性があります。
- コンクリートなどの固い床に落としたり、強い衝撃を与えたり、投げつけたりしないでください。破裂、発火や火災、発熱や発煙の原因となります。
- 購入時に比べ運用時間が極端に短くなったとき、バッテリーは寿命です。使用を続けると、発煙や発火の原因となります。
- 使用中や充電中にいつもより発熱するなど異常と感じたときは、使用を中止してください。破裂、発熱、液漏れ、故障の原因となります。
- 満充電後、すぐに再充電を繰り返さないでください。過充電状態となり、破裂、発熱、液漏れの原因となります。

■ 異常時の処置について

- 以下の場合、すぐに本体の電源を切り、充電器をご使用の場合は AC アダプターを AC コンセントから抜いてください。異常な状態のまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。修理はお買い上げの販売店、または弊社サービス窓口にご連絡ください。お客様による修理は違法ですから、絶対におやめください。
 - 本体が熱くなったり、煙が出たとき。
 - 異音や異臭がしたとき。
 - 落としたり、ケースを破損したりしたとき。
 - 内部に水や異物が入ったとき。
 - AC アダプターのコードが傷んだとき（芯線の露出や断線など）
- 雷が鳴りだしたら安全のため本体の電源を切り、充電器をご使用の場合は AC アダプターを AC コンセントから抜いて、ご使用をお控えください。

■ 保守・点検

- 本体や充電器のケースは開けないでください。けが・感電・故障の原因となります。内部の点検・修理はお買い上げの販売店または弊社サービスセンターにご依頼ください。

△注意

■ 使用環境・条件

- 直射日光があたるなど高温になる場所での使用、保管は避けてください。ケースが変形する原因となります。
- テレビやラジオの近くで使用しないでください。電波障害を与えたり、受けたりすることがあります。
- 直射日光があたる場所や炎天下の車内、車のヒーターの吹き出し口など、異常に温度が高くなる場所には置かないでください。内部の温度が上がり、ケースや部品が変形・変色したり、火災や故障の原因となります。
- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所には置かないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 湿度の高い場所、ホコリの多い場所、風通しの悪い場所には置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。
- ぐらついた台の上や傾いた所、振動の多い場所には置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となります。
- マイク部にシール類を貼らないでください。相手に音声聞こえなくなります。
- イヤホンなどが汗や水で濡れたときは、拭き取ってください。水分がケーブルを伝って機器内部へ入ると故障の原因となります。
- 電波を使用している関係上、無線機器の通話は第三者による傍受を完全に阻止することはできません。通話の内容は第三者に聞こえるためご注意ください。
- グループトーク機能を使用する際、特定のグループ番号において従来製品との間で通話が途切れる場合があります。このようなときは違うグループ番号を選んで通話をお試しください。これはグループトーク機能に使用されるトーン信号の検出精度や仕組みが機種によって異なるためであり故障ではありません。

■ トランシーバー本体の取扱いについて

- イヤホン類で大きな音声を聴き続けていると聴力障害の原因となります。聴力に異常を感じたときはすぐに使用をやめて医師にご相談ください。
- 落下による衝撃や、水分、異物の混入などによる故障の場合は保証対象外になりますのでご注意ください。
- 静電気がたまりやすい場所や服装でイヤホンを装着するとき、耳に静電気ショックを感じる場合がありますが、漏電のような異常ではありません。
- 本機は使用していなくてもわずかな待機電流により電池が放電し、長期間放置していると電池が消耗し使用できなくなることがあります。長期間ご使用にならないときは安全のため本体の電源を切り、主電源をお切りください。
- アンテナ先端などの突起物が目や鼻などの傷つきやすい部位に当たらないようにご注意ください。
- ズボンのポケットに入れないでください。座ったときなどに無理な力が加わり故障する原因となります。
- 磁気カードを無線機器の近くに置かないでください。磁気カードのデータが消去されることがあります。

■ 充電器の取扱いについて

- 充電器の AC アダプターを抜くときは、コードを引っ張らないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 充電器の AC アダプターを熱器具に近づけないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 充電器を長時間ご使用にならないときは安全のため AC アダプターを AC コンセントから抜いてください。

■ 内蔵バッテリーについて（リチウムイオン電池）

- 次の項目を守らないと、破裂、発火や火災、発熱や発煙、液漏れ、感電、火傷の原因となります。
 - 火中に投入したり、加熱したりしないでください。
 - 水や海水につけたり、濡らしたりしないでください。
- 次の注意事項を守らないと、破裂、発熱、液漏れ、サビ、性能や寿命の低下の原因となります。
 - バッテリーを満充電にした状態、または完全に使い切った状態で長期間放置しないでください。長期間バッテリーを保管する場合は、バッテリーを完全に使い切った状態から 1 時間程度充電した後、保管してください。
 - 無線機を使用しないときは、必ず電源を切ってください。

■ 保守・点検

- 汚れた場合は柔らかいきれいな布で乾拭きしてください。ベンジン、シンナー、アルコール、洗剤などを使うと外装や文字が変質するおそれがあります。洗剤などを直接無線機に吹き付けしないでください。機器内部に浸透し故障の原因となります。
- お手入れの際は安全のため本体の電源を切り、充電器をご使用の場合は、AC アダプターを AC コンセントから抜いてください。
- イヤホンなどをお使いのときは、ケーブルをときどき湿らせた布で拭いてください。汗や皮脂はケーブルを劣化させる原因となります。
- 技術基準適合証明ラベル及び製造番号ラベルをはがさないでください。製造番号がわからないと保証サービスをお受けいただくことができません。

■ 電磁ノイズ

インバーター回路を内蔵している電子機器およびハイブリッドカー、電気自動車の車内や周辺では電磁ノイズの影響を受けて、正常に動作できないことがあります。

例：● LED 照明機器 ● 電磁調理器 ● 給湯器 ● 自動車の電子機器 ● 太陽光発電装置 など

■ アフターサービスについて

◎ 保証と保証書

修理やメンテナンスなど、保証の詳細は販売店とお客様の間の契約が優先されますのでご購入時によくご確認ください。弊社の製品保証の内容は弊社発行の保証書に記載されています。保証書には購入店名、購入日の記入と、記載の製造番号に間違いがないかをお確かめの上、本書と一緒に大切に保管してください。記載がないときは販売店発行のレシート、納品書など購入店と購入日が証明できる書類と一緒に保存してください。購入店と購入日が証明できない場合は製品保証が無効となりますのでご注意ください。

◎ 保証期間が過ぎたら

お買い上げいただいた販売店または弊社サービス窓口へご相談ください。修理によって機能が維持できる場合には、お客様のご要望により有償で修理いたします。アフターサービスや製品に関するよくあるご質問は「アルインコ 電子 FAQ」をキーワードにネット検索してください。ご不明な点がございましたら、お買い上げいただいた販売店または弊社サービス窓口へご相談ください。

◎ 製造終了製品に対する保守年限に関して

弊社では製造終了後も下記の期間、製品をご使用いただけるように最低限必要な補修用部品を常備しています。ただし、不測・不可抗力の事態により在庫部品に異常が発生したような場合はアフターサービスをご提供できなくなることもありますので、あらかじめご了承ください。

補修部品の保有期間は、生産終了後5年です

◎ 注意事項

- 改造、分解されたり銘板やラベル類が剥がされたりした製品は、技術基準適合から外れるため、修理をお断りすることがあります。
- 修理見積や保険用の証明書の発行は、一部有償です。
- 本機には明確に定められた製品寿命はありません。
- 樹脂成型時に細いラインが入ることがありますが、異常ではありません。
- 印字について美観上の問題が無い範囲でわずかなムラがあります。
- 使用条件によって端子部が変色することがあります。異常ではありませんが、乾いた清潔な布や綿棒で拭いて清掃してください。充電不良などの原因となります。
- 静電気が溜まりやすい場所や服装で別売のイヤホンを装着するとき、耳に静電気ショックを感じる場合があります。ドアノブなどに触れて感じるようなショックと同じで、漏電のような異常ではありません。
- 付属品、および弊社指定のオプション品以外のアクセサリを接続して使用すると故障や動作不良の原因になることがあります。他社製品をご使用になったの不具合は保証期間に関わらず、製品保証の対象外

です。他社製品を本機に使うための改造サービスは有償、無償にかかわらず行っておりません。

- 本機を何らかのシステムや電子機器の一部として組み込んで使用しないでください。事前の個別契約が無い限り、誤動作、不具合や損害が生じても一切の責任は負いかねます。
- 製品の保証の詳細は同梱の保証書に記載されています。別売のアクセサリと一緒にお求めになっても、保証書が同梱されていないアクセサリは製品保証の対象に含まれません。

■ 充電式電池のリサイクル

- 本機は充電式電池使用機器です。内蔵電池の交換は販売店にご相談いただくか、本書の「アフターサービスについて」をご参照のうえ弊社サービスセンターにご相談ください。
- 廃棄の際は住まいの地域の「充電式電池内蔵小型家電」のルールに従ってください。



■ 電波法

- ◎ 本機は電波法に基づいて、技術基準適合証明（工事設計認証）を受けた製品です。分解したり改造したりすると罰せられます。「技適マーク」は製品内部に印字しています。



- ◎ 本機に貼付されたラベル類は重要です。次のことにご注意ください。
 - 機種名、数字や記号が書かれたラベル類は一切絶対に剥がしたり、他のシールなどで隠したり、貼り替えたりしないでください。技術適合の基準から外れ、違法機器とみなされることがあります。
 - ラベル類が隠れるように他のシールやステッカーが貼り付けられていたら、修理の際に弊社サービスセンターで破棄させていただきます。ラベル類の印字が薄れてきた場合はお買い上げいただいた販売店か弊社サービスセンターにご相談ください。
 - ラベル類が意図的に手を加えられていると判断した場合、修理をお断りすることがあります。不法無線局開設の補助に該当するためですのでご了承ください。
- ◎ 他人の通信を妨害したり、知りえた内容を通信者の許可なく第三者に伝えたり、自身で利用したり、メディアに公用したりすると罰せられます。
- ◎ 電波行政の違いから使用できるのは、日本国内に限られています。
- ◎ 心臓ペースメーカーや補聴器を使用している人の近くで、本機を使用しないでください。電波妨害により機器が誤作動すると大変危険です。

機能と特長

- 小型ながら本格的な特定小電力トランシーバー「ラペルトーク」シリーズです。
- コンパnder、VOX、エンドピー、PTT ホールド、送信禁止、イヤホン断線検知、コールバック(自声モニター)など定番の機能をもれなく搭載しました。

ご使用になる前に

■ 使用環境

高温、多湿、直射日光が当たり短時間でも危険温度になるところは避けてご使用ください。

■ 分解しないで

特定小電力無線機の改造、変更は法律で禁止されています。分解したり内部を開けたりすることは絶対にしないでください。

■ 使用禁止場所

本機は微弱電波の特定小電力無線装置ですが、無線機器の使用が制限される場所では事前に管理者の許可を得てください。

例：航空機内、空港敷地内、公共交通機関内、医療・高齢者施設など

本機は日本国内専用モデルです。海外では使用できません。

This product is intended for use only in Japan.

■ 通信距離の目安（ラベルトーク同士、中継無し）

通話できる距離は周囲の状況や取付け方によって大きく異なります。

- 河原など障害物のない平地、見通しのよい道：200m 程度
- 市街地や住宅街など障害物が多いところ：50～100m 程度
- 店舗などの建屋内：30～50m 程度

注意

- 建屋内の縦階層間の通話はフロアが障害物になるため、直線では数十メートルの近距離であっても通信できないことがあります。このような場合では中継器を設置することで通話エリアを広げることができます。
- 人体を含む障害物やアンテナの向き、歩行など移動による影響を受けると通話距離は半分程度まで短くなることがあります。
- トンネルのような閉鎖空間ではUHF電波伝搬の特性により近距離でも通話できないことがあります。

目次

安全上のご注意.....	2
機能と特長	6
ご使用になる前に.....	6
1. 特定小電力無線の通信制限について.....	9
2. 付属品	9
3. お使いになる前に（内蔵バッテリーについて）	10
4. 充電器（別売）	10
5. 各部の名称とはたらき	13
6. 基本操作.....	15
7. 交互通話.....	16
8. 中継通話.....	17
9. 呼出音（コールトーン）	17
10. グループトーク機能	18
11. 減電池お知らせ	18
12. イヤホン断線検知機能	18
13. リセット.....	18
14. セットモード.....	19
15. 拡張セットモード	22
16. 故障とお考えになる前に	25
17. オプション一覧.....	25
18. 生産終了品に対する保守期限	25
19. 定格	26
20. メンテナンス.....	26

1. 特定小電力無線の通信制限について

特定小電力無線機の通信に関する制限事項について説明します。

1-1. 3分制限(3分以上は連続で送信できません)

通信時間が合計 3 分になると自動的に送信は停止します。送信停止 10 秒前に警告音が鳴ります。チャンネルを独占させないための機能です。

注意 3 分の通信時間制限により自動的に通信が停止したあとは、約 2 秒間たたないと送信できません。

1-2. キャリアセンス(受信中は送信できません)

一定の強さ以上の信号を受信しているときは PTT キーを押しても送信できません。受信中に PTT キーを押すとアラーム音が鳴り、送信できないことをお知らせします。混信や妨害を与えないための機能です。

注意 「ビープ音+ガイダンス音量」(P.20)をミュートオンに設定している場合、アラーム音は鳴りません。

2. 付属品

付属品をご確認ください。

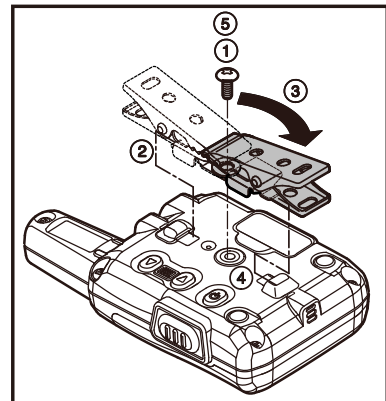
☐クリップ+ネジ 1 本(本体装着済) ☐ストラップホルダー ☐簡易取扱説明書 1 枚 ☐保証書

注意

- 保証書にご購入の日付が記載されていないときは領収書やレシートを保証書と一緒に保管してください。ご購入日が証明できる書類がないと保証サービスは無効となりますのでご注意ください。
- 本機の保証は、本機と付属品だけに適用されます。
- 弊社純正、または弊社が認めたアクセサリ以外をご使用になって起きた不具合は保証期間の有無を問わず有償修理になります。他の無線機メーカー製オプション品が使えるかどうかは検証していません。他社製アクセサリに関する事は、直接その製品のメーカーにお問い合わせください。

■クリップの取外し/取付け

本機のクリップは装着済みですが、使用する向きに応じて付け替えることができます。クリップを逆向きに取付ける場合は、ネジを取外し①～⑤の順番で取付けてください。付属品以外のネジを使うと無線機本体が破損します。
規格以外のネジは使用しないでください。



ストラップホルダー

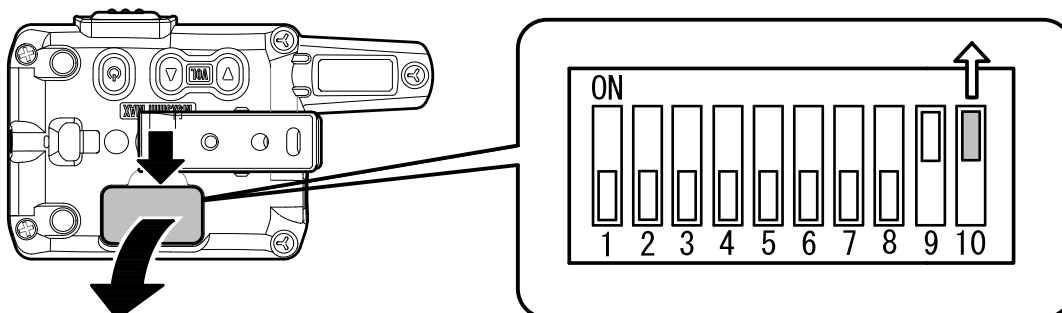
市販のストラップをお使いになる際は、クリップを取外し、ストラップホルダーに付け替えてください。ストラップを突起物に引っかけたり、シュレッターのような機器に巻き込まれないよう注意してください。けがの原因となります。

注意

- 標準付属品以外のねじを使うと、無線機本体が破損します。規格以外のねじはご使用にならないでください。
- 本機はアンテナを上に向けて装着するのが基本です。マイクが2個搭載(P.13参照)されており、上下逆に装着することもできます。9番スイッチを切り替えて使用するマイクを選択します。
- 定期的にクリップのネジにゆるみがないか点検してください。クリップは消耗品です。保守部品(EBC-48)として販売しています。お買い求めの際は販売店にご相談ください。

3. お使いになる前に（内蔵バッテリーについて）

本機にはリチウムイオンバッテリーが内蔵されていますが、出荷時には十分に充電されていません。ご使用になる前に主電源（10 番スイッチ）を入れ、別売オプションの充電器で満充電してください。スイッチの切り替えには先端が鋭利ではないものをお使いください。設定完了後はゴムキャップを元どおりに取付けてください。



注意

- 本機をしばらくご使用にならないときは安全のためや、リチウムイオンバッテリーの劣化防止のため主電源（10 番スイッチ）をオフにしてください。
- 長期間保管される場合は内蔵バッテリー劣化防止のため、放電させてから 1 時間ほど充電してください。リチウムイオンバッテリーは 50% 程度の充電状態が保存には最適です。主電源（10 番スイッチ）はオフにしてください。
- リチウムイオンバッテリーは正しく使っていても経年劣化し、古くなると発熱発火のリスクが高くなります。3年を目安、長くても5年以内に販売店または弊社サービスセンターに内蔵バッテリーの交換をご依頼ください。

4. 充電器（別売）

別売の充電スタンドを使用した充電方法を説明します。

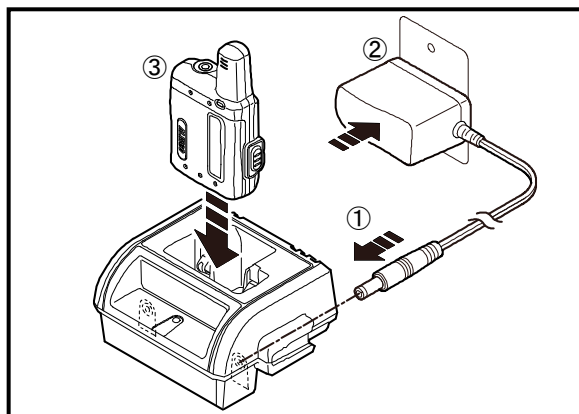
- シングル充電器セット : EDC-207A (AC アダプター付属)
- 連結充電スタンド : EDC-207R (連結ケーブル付属)
- 5 口充電スタンド : EDC-208R
- 連結用 AC アダプター : EDC-162 (EDC-208R 専用)

注意

充電するときは本機の電源（電源キー）を切ってください。電源を入れたままだと満充電にならないことがあります。

4-1. シングル充電器セット(EDC-207A)の使用方法

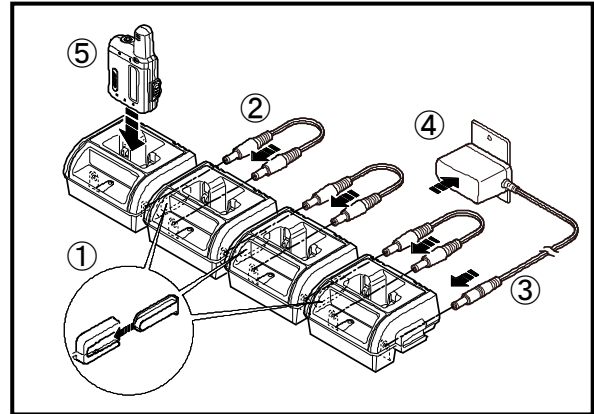
- ① AC アダプターのプラグを充電スタンド裏面に
ある、いずれかのジャックへ接続します。
- ② AC アダプターを家庭用コンセント（AC100V）
に接続します。
- ③ 本機を充電スタンドのポケットへ挿入します。
充電が開始すると充電スタンドの赤色ランプが
点灯します。
- ④ 充電が完了すると充電スタンドの緑色ランプが
点灯します。



4-2. 連結充電スタンド(EDC-207R)の使用方法

シングル充電器に連結充電スタンドを 3 台まで接続し、最大で 4 台のトランシーバーを同時に充電できます。

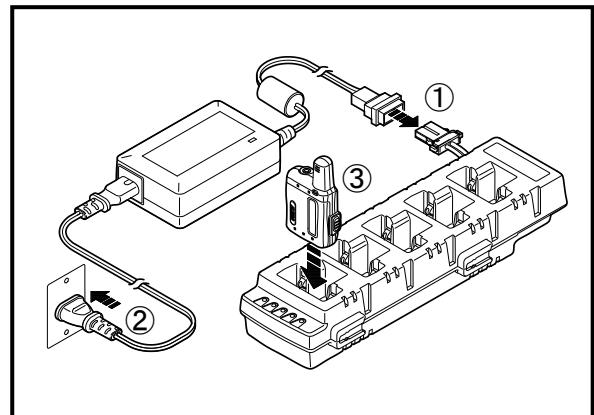
- ① 充電スタンド同士を連結します。
- ② 充電スタンド裏面のジャックに連結ケーブルを接続します。
- ③ AC アダプターのプラグを端の充電スタンド裏面のジャックへ接続します。
- ④ AC アダプターを家庭用コンセント AC100V へ接続します。
- ⑤ 本機を充電スタンドのポケットへ挿入します。充電が開始すると充電スタンドの赤色ランプが点灯します。
- ⑥ 充電が完了すると充電スタンドの緑色ランプが点灯します。



4-3. 5 口充電スタンド(EDC-208R)の使用方法

1 台の充電器で最大 5 台のトランシーバーを同時に充電できます。

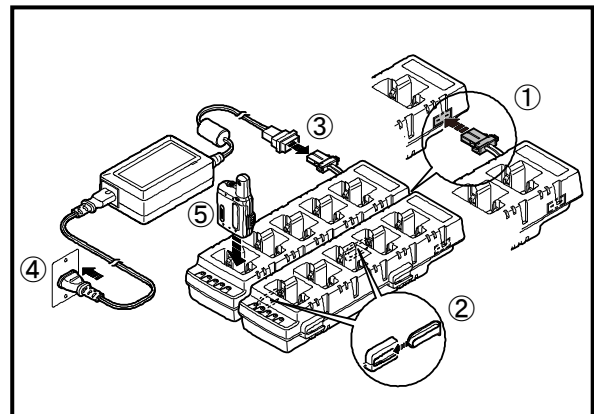
- ① 充電スタンドと連結用 AC アダプター (EDC-162) のコネクターを接続します。
- ② 連結用 AC アダプターを家庭用コンセント AC100V へ接続します。
- ③ 本機を充電スタンドのポケットへ挿入します。充電が開始すると充電スタンドの赤色ランプが点灯します。
- ④ 充電が完了すると充電スタンドの緑色ランプが点灯します。



4-4. 5 口充電スタンド(EDC-208R)の連結使用方法

5 口充電スタンドを 2 台接続し、最大で 10 台のトランシーバーを同時に充電できます。

- ① 充電スタンド裏面のコネクターを接続します。
- ② 充電スタンド同士を連結します。
- ③ 一端の充電スタンドと連結用 AC アダプターのコネクターを接続します。
- ④ 連結用 AC アダプターを家庭用コンセント AC 100V へ接続します。
- ⑤ 本機を充電スタンドのポケットへ挿入します。充電が開始すると充電スタンドの赤色ランプが点灯します。
- ⑥ 充電が完了すると充電スタンドの緑色ランプが点灯します。
- ⑦ スタンドの連結を切り離す場合は、断線を防ぐために先に裏面のコネクターを抜いてください。



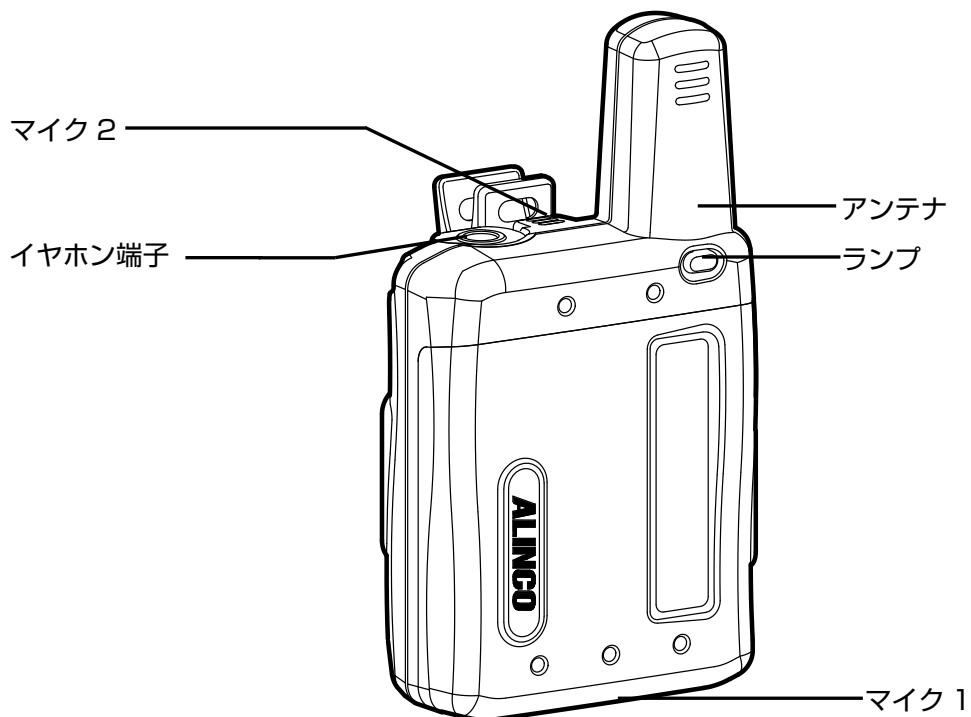
注意

- 本機及び充電器の充電端子はときどき乾いた布で掃除してください。汚れていると接触不良の原因となります。
- 本機をいずれかのポケットに挿入すると赤色ランプが点灯するが別のポケットに挿入すると緑色ランプが点灯する、またはその逆の動作をすることがあります。充電開始・完了を決定する回路の個体差により、このような動作をすることがありますが異常ではありません。
- 主電源を入れていない状態で充電器に挿入すると赤色・緑色ランプが点灯することがありますが、一時的に微小な電流が流れるためであり異常ではありません。充電する際は、主電源が入っていることを確認してください。

5. 各部の名称とはたらき

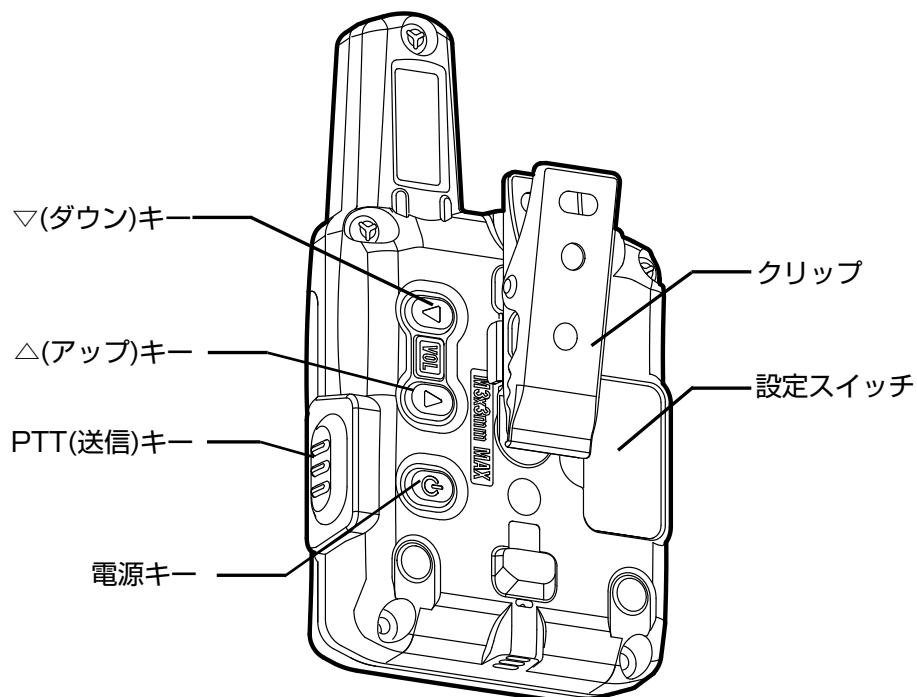
前面部

本機には上下に 2 個のマイクを搭載しています。お使いになる無線機の向きに応じて背面部の設定スイッチの 9 番を切り替えてください。



背面部

出荷時、設定スイッチは 9 番以外がオフになっています。ご使用になる際は、主電源（10 番スイッチ）をオンに切り替えてください。



名 称	説 明
PTT(送信)キー	送信する間は押し続けます。 離すと受信待受けに戻ります。
電源キー	約 2 秒間押しして電源をオン/オフします。 電源オン中に短く押すと CH とグループ番号を音声でガイドします。
マイク 1	出荷時には選択されていません。9 番スイッチを切り替えてここに向かって話します。
マイク 2	出荷時にはこちらが選択されています。ここに向かって話します。
ランプ	各状態を表示します。 赤色点灯 : 送信中 緑色点灯 : 受信 青色点灯 : 受信待受け、電源投入時 青色点滅 : バッテリー電圧低下 赤色緑色交互点灯 : イヤホン断線 ※色の見え方は LED の個体差により異なる場合があります。
△(アップ)キー	音量を上げるときに押します。また、各設定項目の変更時に押します。
▽(ダウン)キー	音量を下げるときに押します。また、各設定項目の変更時に押します。
設定スイッチ	ゴムキャップを外し、スイッチを操作します。 設定完了後はゴムキャップを元どおりに取付けてください。
イヤホン端子	別売のイヤホンを接続します。イヤホンプラグ(Φ3.5)を接続するときにはしっかりと奥まで挿入してください。中途半端に挿入して使用すると誤動作をします。そのまま使用を続けると故障の原因になります。 汗やしぶきでぬれたらこまめに乾拭きしてください。抜き差しするときに本機に水分が入ると故障の原因になります。
クリップ	取外し/取付け方法は「クリップの取外し/取付け」(P.9)を参照ください。

設定スイッチの機能一覧

項目		初期値	設定スイッチ
1	交互通話/中継通話	オフ (交互通話)	
2	グループトーク	オフ	
3	PTT ホールド (送信保持)	オフ	
4	VOX (音声検知送信)	オフ	
5	ビーブ音+音声ガイダンス	オフ (ミュートオフ)	
6	コンパンダー (雑音低減)	オフ	
7	エンドビー (送信終了音)	オフ	
8	コールバック (音声モニター)	オフ	
9	マイク選択	オン (マイク 2)	
10	主電源	オフ	

6. 基本操作

6-1. ご使用になる前に

● 内蔵バッテリー

内蔵のリチウムイオン電池は出荷時、十分に充電されていません。
ご使用前に主電源（10 番スイッチ）を入れ、別売オプションの充電器で満充電してください。

● イヤホンの接続

電源を入れる前に弊社製純正オプションのイヤホンを正しく接続してください。プラグをしっかりと奥まで差し込んでください。
正しく接続できていなければ、起動しなかったり、「イヤホン断線検知機能」(P.18)が働く場合があります。

6-2. 音声ガイダンス

本機はチャンネルやグループなどの設定内容、及び各状態を音声ガイダンスでお知らせします。本書では音声ガイダンスが動作することを「鳴ります」と表記しています。

注意 設定スイッチの5番スイッチをオン側にしている場合、音声ガイダンスや操作音は鳴らなくなります。

6-3. キー操作

「キーを押す」とはしっかり押した後、すぐに離すことを指します。
「キーを長押し」とは約 2 秒間押し続けることを指します。

6-4. 電源のオン/オフ

● 主電源を入れる

ゴムキャップを外し、10 番スイッチをオンにします。

● 電源を入れる

電源キーを長押しします。ランプが青色点灯し、チャンネルとグループが鳴ります。電源を切るときも同じ操作で「ププ」音が鳴り消灯します。

参考 電源が入っているときに電源キーを押すと、チャンネルとグループが鳴り、設定内容を確認できます。後述のお知らせ機能 (p.24) がオンのときは設定内容のガイダンスは鳴りません。

6-5. 音量を調整する

▽/△キーを押すと「ピッ」という音が鳴り音量が切り替わります。キーを押し続けると連続して音量が切り替わります。▽/△キーを同時に押して離すと「ザー」というノイズが鳴り音量調節の目安となります。適切な音量に調整してください。

注意 イヤホンを使用するときはあらかじめ音量を下げてください。音量を大きくし過ぎると聴力障害の原因となるおそれがありますので、小さい音から徐々にあげて調整してください。

7. 交互通話

一人が話す音声を残し全員が受信します。複数の人が同時に送信することはできません。電波の届くところにいれば人数に制限なく通話できます。本機または交互通話対応の特定小電力無線機を複数台使用した通話が可能です。

7-1. 通話方式を設定する

設定スイッチの1番スイッチをオフ（交互通話）に設定します。

7-2. チャンネルを合わせる

交互通話用チャンネル 20 チャンネルの中から使用するチャンネルを選択できます。交互または中継であるかは、1番スイッチの設定で選択できます。（中継通話の際は別途中継器が必要です）

△キーを押しながら電源を入れます。「チャンネルを選択してください」が鳴ったら▽/△キーを押してチャンネルを選択します。設定したチャンネル番号が鳴ります。



参考

1番スイッチをオフで初期化したときは、交互チャンネルL01になります。1番スイッチをオンで初期化したときは、中継チャンネルL10になります。

7-3. 受信する

信号を受信するとランプが緑色に点灯して、イヤホンから相手の声が聞こえます。



参考

本機にはテールノイズキャンセラー機能を搭載しており、受信終了時の「ザッ」というノイズが低減されています(テールノイズキャンセラー機能を搭載した機器間の通話においてのみ有効)。

7-4. 送信する

信号を受信していないことを確認してから[PTT]キーを押します。ランプが赤色に点灯し送信が始まります。[PTT]キーを押しながらマイクに向かって話します。マイクと口元は約 5cm 離してください。

注意

一定の強さ以上の信号を受信しているときはキャリアセンスがはたらき、「プププ」と警告音が鳴り送信できません。受信信号がなくなり、ランプが緑色から青色に変わったら送信できます。5番スイッチがオンの場合、警告音は鳴りません。



参考

中継通話も同様にPTTキーを押し続けます。「ピピ」音が鳴って中継器にアクセスします。そのままPTTキーを押しながらマイクに向かって話します。（別途中継器が必要です）

8. 中継通話

直接では電波が届かない相手と別売の中継器を介して交互に通話できます。

電波の届くところにいれば人数に制限なく通話できます。中継器を介して、本機または中継通話に対応した特定小電力無線機を子機として、複数台使用した通話が可能です。

8-1. 通話方式を設定する

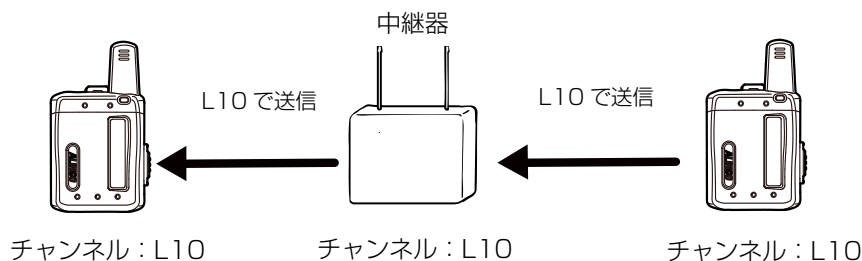
設定スイッチの1番スイッチをオン（中継通話）に設定します。

8-2. チャンネルを合わせる

中継通話用チャンネル 27 チャンネルの中から使用するチャンネルを選択できます。交互または中継であるかは、1番スイッチの設定で選択できます。（中継通話の際は別途中継器が必要です）

△キーを押しながら電源を入れます。「チャンネルを選択してください」が鳴ったら▽/△キーを押してチャンネルを選択します。設定したチャンネル番号が鳴ります。

例：子機(DJ-PX5G)のチャンネルをL10で運用する場合



8-3. 受信する

信号を受信するとランプが緑色に点灯して、イヤホンから相手の声が聞こえます。

8-4. 送信する

信号を受信していないことを確認してから[PTT]キーを押します。ランプが赤色に点灯し、送信が始まります。[PTT]キーを押して「ピピッ」音が鳴ったら、[PTT]キーを押したままマイクに向かって話します。

注意 それぞれの機器が至近距離にあると誤動作することがあります。子機－中継器間、子機－子機間は10m以上離してください。



参考

ご使用になる中継器の設定をご確認ください。中継器にグループトーク機能が設定されている場合は、本機にも中継器と同じグループ番号を設定してください。

9. 呼出音（コールトーン）

送信中に▽/△キーを押すと、呼出音（コールトーン）が送出され、相手呼び出すことができます。5番スイッチがオンの場合、呼出音は鳴りません。

10. グループトーク機能

グループトーク機能を設定するとグループ番号が一致した場合のみ受信音声聞こえます。グループ番号の合わない信号を受信したときに音を出さない機能です。
他のユーザーと混信しやすい場所で設定すると便利です。

■ グループ番号を合わせる

2 番スイッチをオンにして▽キーを押しながら電源を入れます。ランプが点灯し「グループを選択してください」が鳴ったら▽/△キーを押してグループを選択します。設定したいグループ番号が鳴ったらそのまま 5 秒間放置するか、PTT キーを押して確定します。

グループ番号は 01～50 を選択できます。

また、他社製や長年お使いの機種が混じるときは相性による通話不良を避けるため、02～38 番からお選びください。

注意

- チャンネルとグループ番号が一致している人とのみ通話ができます。
相手がグループトークを設定していない場合、こちらの声は相手に聞こえます。他人の声を聞かずに済むだけで、混信除去や秘話機能ではありません。
- グループ番号を設定した後にチャンネルや通話方式を変更しても、グループ番号はそのまま維持されます。



参考

グループトークをオンにした際の初期値は1番に設定されており一般的によく使用されます。混信を避けるために1番以外の設定をお勧めします。

11. 減電池お知らせ

バッテリーの電圧が低下するとランプが青色点滅してお知らせします。さらに低下すると点滅周期が速くなるとともに「充電してください」が定期的に鳴ります。本機の電源を切り充電器に挿入して充電してください。

12. イヤホン断線検知機能

電源を入れた直後にランプが赤色と緑色に交互点滅していたらイヤホンが断線しています。プラグが緩んでいないか接続状態を確認し、故障していたら新しいものにお取替えください。

13. リセット

リセットをすると、拡張セットモードを含む全ての設定が初期化され、工場出荷状態になります。
また、拡張セットモード以外を初期化する簡易リセットも搭載されています。

■ 工場出荷リセット

電源を切った状態で電源キーと△キーと PTT キーを同時に 5 秒間押し続けます。途中でランプが点灯しますが、そのまま押し続けると交互点滅に代わり「初期化しました」と鳴ります。すべての設定内容は初期化され工場出荷状態に戻ります。

■ 簡易リセット

電源を切った状態から電源キーを 10 秒間押し続けるとランプが点滅し、拡張セットモード以外のすべての設定が初期化されます。

14. セットモード

本機は用途に合わせて、より使いやすくするためにカスタマイズすることができます。ここでは簡易取扱説明書でご説明しきれていない設定スイッチの内容についてご説明します。

■ 設定スイッチ

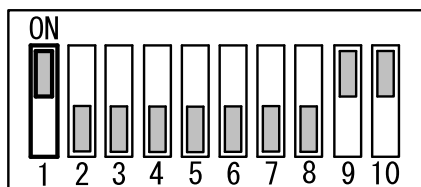
セットモードを設定するには本体裏面のゴムキャップを取外してスイッチを操作してください。スイッチの切り替えには先端が鋭利ではないものをお使いください。設定完了後はゴムキャップを元通りに取付けてください。（主電源の 10 番スイッチは ON にします）

14-1. セットモード項目

1. 交互通話/中継通話

設定値：交互通話/中継通話（初期値：交互通話）

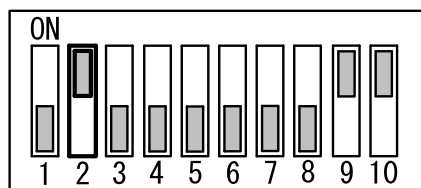
設定スイッチ 1 番をオンにすると中継通話用のチャンネルになります。チャンネルはキー操作で選択します。中継器を使用すると通話エリアが広がります。中継通話には別途中継器が必要です。中継器の周波数方向は B（440MHz 受信/421MHz 送信）に設定してください。



2. グループトーク

設定値：オフ/オン（初期値：オフ）

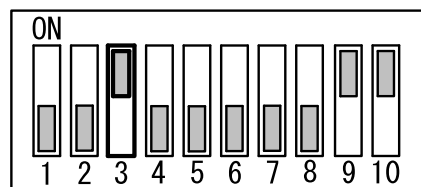
設定スイッチをオンにするとグループトークができます。グループトークを設定することで、同じグループ番号に設定されているトランシーバーとだけ通話することができます。グループ番号は「グループトーク機能」(P.18) をご参照ください。



3. PTTホールド（送信保持）

設定値：オフ/オン（初期値：オフ）

設定スイッチ 3 番をオンにすると PTT ホールド（送信保持）設定がオンになります。この機能を使用すると送信中に PTT キーを押し続ける必要がなくなります。PTT キーを 1 度押すと送信状態を継続し、もう 1 度押すと待受け状態になります。



4. VOX（音声検出送信）

設定値：オフ/オン（初期値：オフ）

設定スイッチ 4 番をオンにすると VOX（音声検出送信）設定がオンになります。

PTT キーを押さなくても自動的に送受信を切り替えることができる機能です。マイクに音声が入れば送信、音声が無くなれば待受け状態になります。

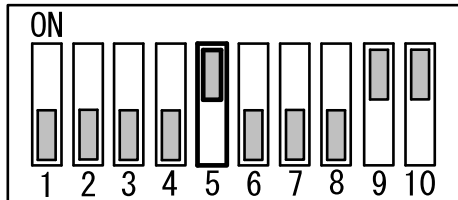


- 注意**
- 音声以外で送信してしまうような周囲の騒音が大きな場所ではVOX機能を使用することはできません。
 - VOX機能を使用すると音声入力から送信開始までに若干の遅延が起こるため、音声の始めが途切れる場合があります。「了解です、～」や「はい、～」など、要件を話す前に途切れても支障がないような言葉をはさんで話し始めると通話しやすくなります。

5. ビープ音+音声ガイダンス

設定値：オフ/オン（初期値：ミュートオフ）

設定スイッチ 5 番をオンにすると本体から鳴る「ビープ音（操作音）」と「音声ガイダンス」がオフになり鳴らなくなります。



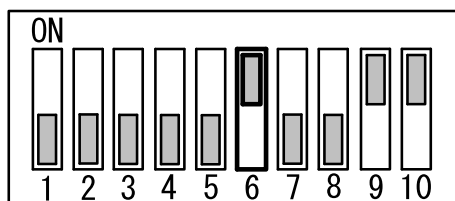
- 注意** チャンネルやグループ番号、減電池お知らせなどのすべての音声ガイダンスが鳴らなくなりますのでご注意ください。

6. コンパンダー（雑音低減）

設定値：オフ/オン（初期値：オフ）

6 番スイッチを ON にするとコンパンダーが設定されます。

通話中に聞こえる「サー」というかすかなバックノイズを低減することができます。



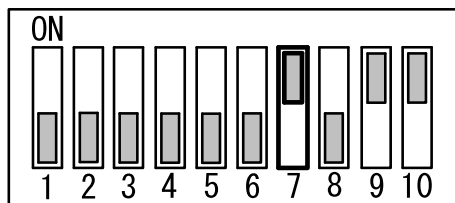
- 注意** コンパンダー機能のないトランシーバーと通話する場合には必ずオフにしてください。かえって音質が悪くなる場合があります。

7. エンドピー（送信終了音）

設定値：オフ/オン（初期値：オフ）

7 番スイッチをオンにするとエンドピーが設定されます。

PTT キーを離したときに「ピッ」と鳴って通話相手に送信が終わったことを伝える機能です。



メモ エンドピーは送信を終了したときに送信側から「ピッ」という音を発し、受信側にお知らせします。本機能をオフ/オンするには送信側機器を設定してください。

8. コールバック（音声モニター）

設定値：オフ/オン（初期値：オフ）

8 番スイッチを ON にするとコールバックが設定されます。

送信中にイヤホンから自分の声が聞こえるようになります。



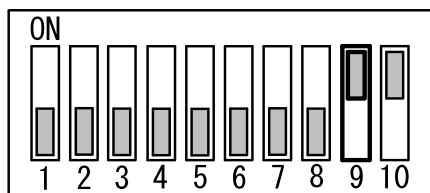
9. マイク選択

設定値：マイク 1/マイク 2（初期値：マイク 2）

出荷時には 9 番スイッチがオンになっており、マイク 2 が設定されています。

9 番スイッチをオフにすると、マイク 1 が設定されます。

トランシーバーの取付け方向に応じてマイクを選択してください。

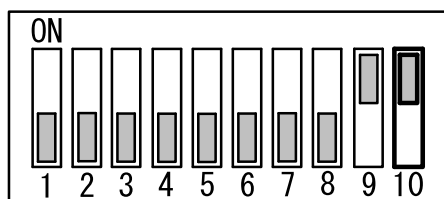


注意 本機はアンテナを上向きで使用する事を想定し、出荷時はマイク2が設定されています。この使用方法だとアンテナの突起が邪魔になることがあります。アンテナが邪魔になるときは、マイク1に設定にして、背面のベルトクリップも逆に取付け、アンテナを下向きにしてご使用ください。ただしアンテナを下向きで使用すると、送信ボタンを押すときに手がアンテナを覆って障害となり、通話距離は若干短くなりますので、ご注意ください。

10. 主電源

設定値：オフ/オン（初期値：オフ）

10 番スイッチをオンにすることで電源キーでの起動や充電が可能となります。



- 注意**
- 本機をしばらくご使用にならないときは安全のためや、リチウムイオンバッテリーの劣化防止のために10番スイッチをオフにしてください。
 - 充電する場合は10番スイッチをオンにして、電源キーで電源を切ってから充電してください。

15. 拡張セットモード

DJ-PX5Gには、特定の環境やニーズによってカスタマイズできる拡張セットモードを持たせています。通常の設定項目とは異なり意味を正しく理解しないと一部の機能が使えなくなるなど誤動作する可能性があるため、製品に付属の取扱説明書には記載しておりません。拡張機能をご理解の上で必要に応じて正しく操作してください。

15-1. 拡張セットモード一覧

No.	項目	初期値	コマンド
1	イヤホン断線検知	オン	[▽]→[▽]→[▽]
2	AGC 設定	オン	[電源]→[電源]→[▽]
3	トーンマージン設定	オフ	[△]→[△]→[△]
4	PTT オン/オフ機能	オン	[電源]→[電源]→[△]
5	PTT ビープ	オフ	[▽]→[電源]→[△]
6	お知らせ機能	オフ	[電源]→[▽]→[△]
7	お知らせパターン	ビープ音‘1’	[電源]→[△]→[電源]
8	お知らせ音量	Middle	[電源]→[▽]→[▽]
9	お知らせ回数	2	[△]→[▽]→[電源]

15-2. 設定方法

オン/オフ切替（設定項目：1～6）

- ① 本機の電源を切った状態でランプが青色点灯するまで電源キーと PTT キーを同時に長押しします。
- ② キーを放し「ブブブ」音が鳴ったあと 10 秒以内に、変更したい設定項目のコマンドを押すと設定値が変わります。この時、項目番号と変更された設定値が鳴ります。
例：イヤホン断線検知のコマンド入力「1 番 オフ」
- ③ 自動的に通常モードに戻り、設定変更された状態で使用できます。

- 注意**
- 設定が初期値から変更された後の起動は、設定変更のお知らせとしてランプが約3秒間紫色点灯し、その後青色点灯します。
 - 続けて複数の設定項目の変更ができませんのでご注意ください。

範囲切替（設定項目：7～9）

- ① 本機の電源を切った状態でランプが青色点灯するまで電源キーと PTT キーを同時に長押しします。
- ② キーを放し「プププ」音が鳴ったあと 10 秒以内に、変更する設定項目のコマンドを押すと設定項目名や設定値が鳴ります。（ランプ：黄色点滅）
- ③ ▽/△キー操作で設定値を変更し、PTT キーを押すと青色点灯し通常モードになります。

注意 ● 初期値から変更された後の起動は、設定変更のお知らせとしてランプが約3秒間紫色点灯し、その後青色点灯します。
● 続けて複数の設定項目の変更ができませんのでご注意ください。

15-3. 設定項目

1. イヤホン断線検知

設定値：オフ/オン（初期値：オン）

イヤホンの断線を検知する機能です。

イヤホンが断線している場合、電源を入れた直後にランプが赤色と緑色に交互点滅します。入力インピーダンスが高い機器を接続する場合などはオフに設定することで断線検知を停止できます。

2. AGC 設定

設定値：オフ/オン（初期値：オン）

マイクに大きな音声が入った場合、通話音声が歪むことがあります。本機能をオンにすると歪みを抑えることができます。

注意 機種間の相性問題を解決できることがありますが、不用意に設定を変更するとかえって音質が悪化することがあります。

3. トーンマージン設定

設定値：オフ/オン（初期値：オフ）

グループトークでのトーン信号の受信精度を調整することができます。従来製品との通話においてグループトークで受信音声途切れる場合、オンにすることで受信しやすくなります。

注意 オンにした場合、グループ番号のトーン信号を誤検知したり、受信終了時に「ザッ」音が聞こえます。

4. PTT オン/オフ機能

設定値：オフ/オン（初期値：オン）

送信を禁止し受信専用にする機能です。オフにすると PTT キーを押しても送信できなくなります。

5. PTT ビープ

設定値：オフ/オン（初期値：オフ）

PTT キーを押すと「ピピッ」音が鳴ります。鳴り終わってから話すことで、通話の頭切れを防げます。

「ピピッ」音は相手には聞こえません。

6. お知らせ機能

設定値：オフ/オン（初期値：オフ）

相手に、自分を取り込み中であることをお知らせする機能です。

電源キーを押すと相手側でブープ音が鳴り、自分が声で応答できないことを代わりに知らせることができます。この機能を有効にするには、送信側、受信側共にオンに設定する必要があります。



参考

● この機能は中継通話モードではご使用になれません。

● ブープ音は、受信側で変更することができます。

7. お知らせパターン

設定値：ブープ 1～4/ガイダンス 1～10（初期値：ブープ音 1）

「6.お知らせ機能」のブープ音を変更する機能です。受信側で設定します。

設定値によって、お知らせを受信したときのブープ音が変化します。

また、ガイダンス 1～10 に設定することで、ブープ音ではなく音声ガイダンスによってお知らせすることができます。

設定値	音声ガイダンス内容
ガイダンス 1	こちらまで来てください
ガイダンス 2	応援願います
ガイダンス 3	急いでください
ガイダンス 4	緊急事態です
ガイダンス 5	不審者がきました
ガイダンス 6	集合してください
ガイダンス 7	確認してください
ガイダンス 8	対応中です
ガイダンス 9	ご来店です
ガイダンス 10	お帰ります

8. お知らせ音量

設定値：Low/Middle/High（初期値：Middle）

「6.お知らせ機能」のお知らせ音量を変更する機能です。受信側で設定します。

9. お知らせ回数

設定値：1～3（初期値：2）

「6.お知らせ機能」でお知らせを受信した際に鳴るブープ音の回数を変更する機能です。受信側で設定します。設定値が大きいほどブープ音が繰り返される回数が多くなります。

16. 故障とお考えになる前に

「故障かな？」と思われたら、まず以下の「処置」をお読みください。

イヤホン類や内蔵バッテリーなどが原因の不具合もありますので、必ずアクセサリも点検してください。設定の間違いなどはリセットをすると回復する場合がありますが、意図した設定まで初期化されるので注意が必要です。

また充電池の残りが少ないとまれに誤作動することがあります。充電してください。

症状	原因	処置
電源が入らない	主電源が入っていない	10 番スイッチをオンにしてください
	バッテリーが切れている	充電してください
ランプが点かない	バッテリーが消耗している	充電してください
音が出ない 受信できない	音量が低すぎる	適切な音量にしてください
	相手とチャンネルが違う	同じチャンネルにしてください
	相手とグループ番号が違う	同じグループ番号にしてください
	相手と距離が離れている	通信距離を目安に送信してください
送信できない	電波を受信している	電波がなくなってから送信してください
	3 分通信制限を超過している	[PTT]キーを離して 2 秒経過後に送信してください
送信音声が相手に 聞こえない	マイクの選択が間違っている	正しい向きにマイクを選択してください
充電できない	充電端子が汚れている	充電端子の汚れを拭き取ってください
	バッテリーが劣化している	バッテリー交換を依頼してください

17. オプション一覧

EDC-207A	シングル充電器セット(AC アダプター付属)
EDC-207R	連結充電スタンド (連結ケーブル付属)
EDC-208R	5 口充電スタンド
EDC-162	連結用 AC アダプター (EDC-208R 5 口充電スタンドに必要)
EME-66B	カナル型ツイストコードイヤホン (ケーブル長：約 50cm)
EME-67B (黒色)	耳かけ型ストレートコードイヤホン(ケーブル長：約 50cm)
EME-67W (白色)	耳かけ型ストレートコードイヤホン(ケーブル長：約 50cm)
EME-68B	耳かけ型ツイストコードイヤホン(ケーブル長：約 50cm)

18. 生産終了品に対する保守期限

生産終了後も 5 年間は補修用部品を在庫しています。

不測の事態で欠品した場合には保守ができなくなることがありますのでご了承ください。

19. 定格

送受信周波数	L チャンネル	421.8125～421.9125MHz (受信) 422.2000～422.3000MHz 440.2625～440.3625MHz (送信)
	b チャンネル	421.5750～421.7875MHz (受信) 422.0500～422.1750MHz 440.0250～440.2375MHz (送信)
電波形式	F3E (FM)	
送信出力	10mW	
受信感度	-14dBu (12dB SINAD)	
音声出力	50mW 以上 (8Ω負荷)	
通信方式	単信、半複信	
定格電圧	DC3.7V(リチウムイオンバッテリー 700mAh)	
消費電流	送信時：約 65mA(High)、約 55mA(Low) バッテリーセーブ時：約 20mA 受信定格出力時：約 100mA	
動作温度範囲	-10℃～+50℃ (充電：0℃～+40℃)	
寸法 W×H×D	41.6mm×52.6mm×17.2mm(突起物除く) アンテナ長：約 22mm	
質量	本体 (内蔵バッテリーを含む) 44g 本体 (内蔵バッテリー、クリップを含む) 50g	

- 仕様、定格は予告なく変更する場合があります。
- 本書の説明用イラストは実物と字体や形状が異なったり、一部の表示を省略したりしている場合があります。
- 本書の内容を無断転載することは禁止されています。

20. メンテナンス

本体とイヤホンは家庭清掃用ブラシでほこりを落とし、清潔な乾いた布で乾拭きしてください。特にイヤホンケーブルは汗などでぬれたら乾拭きしてください。水分侵入は基板を腐食して修理できなくなります。汚れたスポンジやゴムは衛生面からも定期的に新品に交換してください。

アルインコ株式会社 電子事業部

〒541-0043 大阪府大阪市中央区高麗橋4丁目4番9号 淀屋橋ダイビル13階 TEL.06-7636-2361

無線・電源 機器のアフターサービスに関するお問い合わせは
お買い上げの販売店またはフリーダイヤル ☎ 0120-464-007

全国どこからでも無料でお客様のご相談窓口につながります。

受付時間：月曜～金曜 AM10-12 / PM 1-5 (土日祝日と休業日を除く)

お問い合わせフォーム：「アルインコ 電子 お問い合わせ」で検索してください

Copyright Alinco, Inc.

PW0040
FNFI-NL